

現代中国地域研究(NIHU)連携拠点愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)  
政治外交的アプローチ班主催

2015年度第2回政治外交班日中関係情勢分析研究会・公開ワークショップ

# 最近日中関係における 相互国家イメージ

1978年から親近感の調査が始まり、それによって日本人の中国に対する親近感の増減変化を時系列的に見ることができる。内閣府が毎年秋に実施している外交に関する世論調査(「中国に対する親近感」(出所:内閣府))によれば、1978年から88年までは「親しみを覚える」が「親しみを覚えない」を圧倒していたものの、直近の2014年調査では「親しみを覚えない」が83.1%の過去最高を示し、「親しみを覚える」は過去最低の14.8%になってしまっています。

周知のように、80年代、日本人の多くは中国の現実を知らず、日中戦争での加害者意識による贖罪感も伴って「日中友好ムード」になっていましたが、89年の天安門事件で民主化運動への苛烈な弾圧を目の当たりにし、以後、総理の靖国神社参拝問題、尖閣諸島領有問題やそれらに伴う反日暴動・デモなどが繰り返されたことによって、日本人の意識における「日中友好」イメージは大きく変化しました。しかし、今後、政治的にも経済的にも、さらに軍事的にも大国である中国と隣接する日本という現実においては、日中関係が安定的に推移することが望ましいのは言うまでもありません。

そこで、中国に対するイメージが好転する契機を如何に見出していくのか、その建設的な関係構築の方途を、上海生まれの中国人研究者である包教授、テキサス生まれのアメリカ人研究者コート准教授とともに探ります。

## 報告及び問題提起

**包 霞琴** 復旦大学国際関係与公共事務学院教授

**Paul A. Kowert** Associate Professor of Political Science, University of Massachusetts, Boston

## 討論

**加々美 光行** 愛知大学名誉教授

**浅井 正** 愛知大学法科大学院教授

## 司会

**鈴木 規夫** 愛知大学教授・ICCS政治外交班主査

2015.7.24 **金** 15:00-18:00

愛知大学名古屋校舎 厚生棟3階 W31会議室

一般公開・聴講無料・申込不要

## お問い合わせ先

愛知大学国際中国学研究センター (ICCS) 事務室

〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60番6

TEL:052-564-6120 FAX:052-564-6220

URL:<http://iccs.aichi-u.ac.jp/> E-MAIL:[iccs-sympo@ml.aichi-u.ac.jp](mailto:iccs-sympo@ml.aichi-u.ac.jp)

